

★奇跡のリンゴ★

「継続は力なり」とは言うものの、5回6回トライしてダメだとしたら、たいていの人は諦めてしまうかもしれない。ましてや農業に従事する人であれば、勝負は1年単位。今年の失敗は来年にならないと取り返せないのである。そんな農業の世界において、8年連続で失敗をし続けた人がいる。ベストセラーとなった『奇跡のリンゴ』（石川拓治・幻冬舎）で知られる木村秋則さん。彼は絶対不可能とされていたリンゴの無農薬栽培に挑み、毎年その壁に跳ね返された人物である。リンゴは農作物の中でも極端に害虫に弱く、過去に無農薬栽培に成功した人は皆無だった。「誰もやってないならやってみよう」とこの課題に果敢に挑戦したのだが、それは想像以上の茨の道だった。

数年間にわたる段階的な減農薬で好結果が出たものの、いざ無農薬に切り替えてみるとリンゴは全滅。以降、自己流で農薬の代用品を次々に試しながら害虫たちと格闘を繰り返すも一向に害虫は減らない。収穫が途絶えれば当然生活は困窮する。木村さんは夜の繁華街でお店への呼び込みをやり、出稼ぎにも出た。宿泊費を節約するために野宿をすることもあったらしい。農薬さえ使えば、以前のように収穫できることはわかっている。普通の人なら、とっくに諦めるだろう。それでも彼は挑戦することをやめなかった。さらに5年、6年と失敗が続き、木村家の生活はどん底になった。まともな食事もできず、近所からは変人扱いされ、実家の両親にも見放された。そんな中、7年目の挑戦も空しい結果に終わり、彼は絶望した。家族への贖罪（しょくざい）の意識もあってか、とうとう死を決意したのである。

三つ編みにしたロープを手に、夜の岩木山に登った木村さんだったが、ロープが短くて適当な木が見つからず、命拾いをする事になる。山をさまよううち、何気なく足元の土に手がふれて、愕然とした。山の土はふかふかして粘りがあり、自分の畑の土とは別物だ。山の木は農薬などまかなくとも枯れていない。「もしかしたら、土が違うのか」と閃いた。この日

が、運命の分かれ目になった。

木村さんは土作りからやり直すことにした。これまで害虫を駆除することばかりに目を向け、土に関してはノーマークだった。自然な状態を維持するため、畑の下の草刈りもやめた。畑はたちまち雑草だらけになったが、春には1本の木に7個の花が咲き、秋になるとピンポン玉くらいの小さなリンゴが実った。そして翌年。畑一面に白い花が咲き、今度は大量に収穫できた。ようやく無農薬栽培に成功したのだ。やがて彼のリンゴは「奇跡のリンゴ」と呼ばれた。

あれほど失敗続きだった無農薬栽培が、土壌改良によって成功したのはなぜか。農薬が散布された畑は、いわば生態系が崩れた不自然な状態にある。そこにわずかなスキがあればたちまち害虫たちが大発生する。しかし、自然な生態系が保たれている土の中では、さまざまな虫や微生物が発生してバランスが保たれるため、木村さんの畑では、害虫が発生しても他の虫に食われて自然淘汰されたのだ。

出典「もう崖っぷちと思ったら読む本」発行 株式会社アントレックス

99%の努力と、1%のひらめき。と言ったのは発明王エジソン。

ただしこれはあくまで、努力をした者にひらめきが訪れる、というもの。実際にエジソンは「寝ることはさびることだ」と、寝る間を惜しんで発明のための努力を続けたそうです。

奇跡のリンゴで一躍有名になった木村さんも「無農薬栽培をどうしてもしたい」という願い、「必ずできる」という信念があって不断の努力を続けたからこそ、奇跡を実現しました。窮状（きゅうじょう）を突破するひらめきを授かりました。

今、君たちが努力すること。それは受験に向けて、しっかりと勉強することです。

勉強を続ければ、勉強を効率よくするコツがひらめくかもしれませんよ。

★今後の行事予定及びオープンスクールの日程★

9/11(土)	広島山陽高校 OS
/12(日)	弓削商船 OS (オンライン開催)
/17(金)	授業研究
/18(土)	倉敷翠松高校 OS
/23(木・祝)	新庄高校 OS
/25(土)	広陵高校 OS
/28(火)	ミ二体育大会 (コロナ対策で変更の可能性あり)